



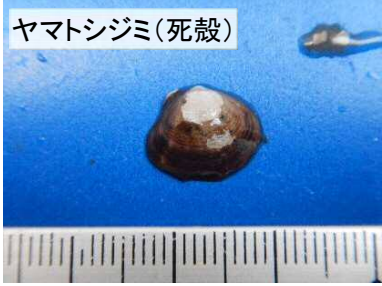

令和7年度 東京都内湾水生生物調査 8 月底生生物調査 速報

東京都内湾水生生物調査

地点名	多摩川河口干潟	調査年月日	令和7年8月21日 7:45 ~ 8:15
<調査地点>		<底質状況・底生生物出現状況>	
		 <p>多摩川左岸側（東京都側）の海老取川河口付近の干潟で調査を行った。</p>	
		 <p>ふるい上には前回と同様にヤマトシジミの貝殻片、腐植物が多く残った。</p>	
<p>底質の状況</p>  <p>底質は砂泥質で、やや砂分が多いように思われた。</p>	<p>調査状況</p>  <p>採泥器を用いて3回以上の採泥を行った。</p>	<p>ヤマトオサガニ</p>  <p>干潟でよくみられるカニ。甲幅4cm程になり、柔らかく水分の多い泥干潟に斜めの穴を掘って巣穴を作る。巣穴の入り口には放射状の浅い溝ができる。</p>	
<p>ヤマトシジミ(死殻)</p>  <p>汽水域にのみ生育するため、河口域に生息するものは出水等の影響を受けやすい。今回は貝殻のみ確認された。</p>	<p>ミズヒキゴカイ科</p>  <p>砂泥干潟や浅瀬の海底に潜り、糸のような鰓と触手を水中に伸ばす。名前の由来は、鰓と触手を水引(祝儀袋等に用いられる飾り)に見立てたもの。</p>	<p>ホトギスガイ</p>  <p>砂泥底に生息するムラサキガイの仲間。富栄養な海域では互いに足糸(そくし)を絡ませて集団で泥の表面を覆い、マット状になることが多い。</p>	



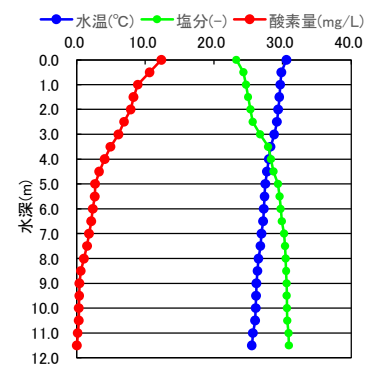






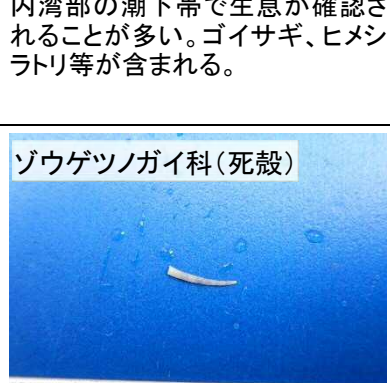
令和7年度 東京都内湾水生生物調査 8 月底生生物調査 速報

東京都内湾水生生物調査

地点名	森ヶ崎の鼻	調査年月日	令和7年8月21日 9:21 ~ 9:52																												
<調査地点>		<底質状況・底生生物出現状況>																													
		 <p>羽田空港の北側に残された干潟。干潮時でも周りは「海」に取り囲まれているため、岸から歩いて入ることはできない。</p>																													
<table border="1"> <caption>水深別の水質データ</caption> <thead> <tr> <th>水深(m)</th> <th>水温(°C)</th> <th>塩分(‰)</th> <th>酸素量(mg/L)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.0</td> <td>28.0</td> <td>30.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>1.0</td> <td>27.0</td> <td>30.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>2.0</td> <td>26.0</td> <td>30.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>3.0</td> <td>25.0</td> <td>30.0</td> <td>2.5</td> </tr> <tr> <td>4.0</td> <td>24.0</td> <td>30.0</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>5.0</td> <td>23.0</td> <td>30.0</td> <td>3.5</td> </tr> </tbody> </table>		水深(m)	水温(°C)	塩分(‰)	酸素量(mg/L)	0.0	28.0	30.0	1.0	1.0	27.0	30.0	1.5	2.0	26.0	30.0	2.0	3.0	25.0	30.0	2.5	4.0	24.0	30.0	3.0	5.0	23.0	30.0	3.5	 <p>ふるい上にはアサリ、ハマグリ等の二枚貝類の貝殻が多く残った。</p>	
水深(m)	水温(°C)	塩分(‰)	酸素量(mg/L)																												
0.0	28.0	30.0	1.0																												
1.0	27.0	30.0	1.5																												
2.0	26.0	30.0	2.0																												
3.0	25.0	30.0	2.5																												
4.0	24.0	30.0	3.0																												
5.0	23.0	30.0	3.5																												
<p>底質の状況</p>  <p>底質はシルト分が主体の砂質であった。</p>		<p>試料採取の状況</p>  <p>干潟上で小型の採泥器を用いて底泥を採取した。</p>																													
		<p>ムロミスナウミナナフシ</p>  <p>体長 2cm ほどになるフナムシに近い仲間。細長い円筒状の体をしており、白地に褐色の斑紋がある。干潟の表層部に巣穴を掘って生活する。</p>																													
<p>ヤマトシジミ(死殻)</p>  <p>汽水域にのみ生育するため、河口域に生息するものは出水等の影響を受けやすい。今回は貝殻のみ確認された。</p>		<p>ニホンドロソコエビ</p>  <p>体長 2cm 程になる。砂～砂泥底の表面近くにトンネルを掘って生活する。東京湾では最も普通に見られるヨコエビの仲間。</p>																													
		<p>マテガイ(殻破損)</p>  <p>東京湾奥の干潟では普通に生息する二枚貝。成長する殻長 10cm 以上になる二枚貝。砂底に縦穴を掘って潜る。</p>																													



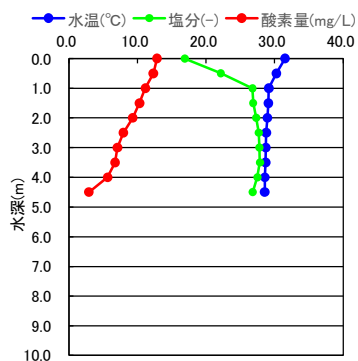







令和7年度 東京都内湾水生生物調査 8 月底生生物調査 速報

東京都内湾水生生物調査

地点名	St.6	調査年月日	令和7年8月21日 10:15 ~10:53
<p><調査地点></p> 		<p><底質状況・底生生物出現状況></p>  <p>東京港フェリーターミナルの正面で船上から底質の採取を行った。航路であるため、水深は11.5mと深い。約7.0m以深は貧酸素状態であった（貧酸素状態：2.0mg/L以下）。</p>	
		 <p>ふるい上にはシズクガイ等の二枚貝類の貝殻（死殻）が残った。</p>	
<p>底質の状況</p>  <p>底質の性状はペースト状のシルトで、表面は酸化状態であった。内部は還元状態であった。</p>	<p>水質測定状況</p>  <p>透明度板を使用して、透明度および水色を測定した。</p>	<p>ニッコウガイ科</p>  <p>内湾部の潮下帯で生息が確認されることが多い。ゴイサギ、ヒメシラトリ等が含まれる。</p>	
<p>シズクガイ(死殻)</p>  <p>半透明の薄く壊れやすい殻を持つ。貧酸素耐性があり、有機汚濁の指標種の一つとされている。</p>	<p>コウロエンカワヒバリガイ(死殻)</p>  <p>東京湾では代表的な付着生物となっている外来種。水質汚濁や塩分の変化に強く、港湾の防波堤や転石等に高密度に付着する。</p>	<p>ゾウゲツノガイ科(死殻)</p>  <p>足を用いて泥底や砂底などを掘り、埋没して生活する。この際、後口を砂や泥から出し、排泄や海水の交換を行う。</p>	






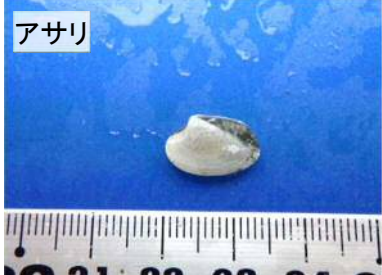
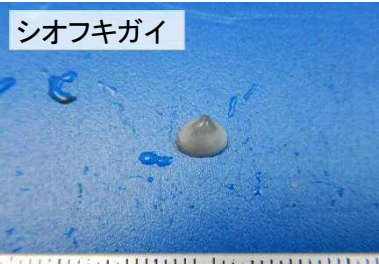


令和7年度 東京都内湾水生生物調査 8 月底生生物調査 速報

東京都内湾水生生物調査

地点名	三枚洲	調査年月日	令和7年8月21日 11:10 ~11:45
<調査地点>		<底質状況・底生生物出現状況>	
		 <p>荒川と旧江戸川の河口に残された天然の浅場。すぐ横は東京ディズニーリゾートである。水深が 4.5m と深いため、船上から採泥した。</p>	
 <p>● 水温(°C) ● 塩分(-) ● 酸素量(mg/L)</p> <p>水深(m)</p>		 <p>ふるい上には腐植物が多く残った。腐植物は旧江戸川から流れ込んだものと考えられるが、5 月調査時より減少していると思われる。</p>	
<p>底質の状況</p>  <p>底質の性状はペースト状のシルトで、表面はやや酸化状態であったが、内部は還元状態であった。</p>	<p>水質調査の状況</p>  <p>船上から水質測定器を降下させ、鉛直方向の水質を観測した。</p>	<p>チロリ科</p>  <p>底泥に穴を掘り生息している。歯をもつ肉食性のゴカイの仲間。</p>	
<p>アサリ</p>  <p>殻長 4cm 程になる。潮干狩りなどで盛んに獲られる代表的な二枚貝。東京湾のものは形が細く、模様のコントラストが強いものが多い。今回は小型個体が多かった</p>	<p>チヨノハナガイ科(死殻)</p>  <p>内湾の泥底に生息する。殻は非常に薄いため、もろく壊れやすい。貧酸素状態でも酸素がある期間に短期的に発生する。</p>	<p>ホンビノスガイ</p>  <p>成長すると殻長 10cm を超える外来種。貧酸素環境に耐性を持ち、現在では東京湾を代表する二枚貝となっている。</p>	

令和7年度 東京都内湾水生生物調査 8 月底生生物調査 速報

東京都内湾水生生物調査

地点名	St.31	調査年月日	令和7年8月21日 8:33 ~8:56																												
<調査地点>		<底質状況・底生生物出現状況>																													
		 <p>多摩川河口から 1.5km 付近の浅場で調査を行った。調査時水深が 0.9m と干潟が干出しないため、船上から底質を採取した。</p>																													
<table border="1"> <caption>水深(m) vs 水質データ</caption> <thead> <tr> <th>水深(m)</th> <th>水温(°C)</th> <th>塩分(-)</th> <th>酸素量(mg/L)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.0</td> <td>~30.0</td> <td>~25.0</td> <td>~1.0</td> </tr> <tr> <td>1.0</td> <td>~28.0</td> <td>~22.0</td> <td>~1.0</td> </tr> <tr> <td>2.0</td> <td>~26.0</td> <td>~20.0</td> <td>~1.0</td> </tr> <tr> <td>3.0</td> <td>~24.0</td> <td>~18.0</td> <td>~1.0</td> </tr> <tr> <td>4.0</td> <td>~22.0</td> <td>~16.0</td> <td>~1.0</td> </tr> <tr> <td>5.0</td> <td>~20.0</td> <td>~14.0</td> <td>~1.0</td> </tr> </tbody> </table>		水深(m)	水温(°C)	塩分(-)	酸素量(mg/L)	0.0	~30.0	~25.0	~1.0	1.0	~28.0	~22.0	~1.0	2.0	~26.0	~20.0	~1.0	3.0	~24.0	~18.0	~1.0	4.0	~22.0	~16.0	~1.0	5.0	~20.0	~14.0	~1.0	 <p>ふるい上にはアサリとマテガイの貝殻の破片が残った。アサリは稚貝(生体)が多数みられた。</p>	
水深(m)	水温(°C)	塩分(-)	酸素量(mg/L)																												
0.0	~30.0	~25.0	~1.0																												
1.0	~28.0	~22.0	~1.0																												
2.0	~26.0	~20.0	~1.0																												
3.0	~24.0	~18.0	~1.0																												
4.0	~22.0	~16.0	~1.0																												
5.0	~20.0	~14.0	~1.0																												
<p>底質の状況</p>  <p>砂が主体で土が混じる。臭気はなかった。</p>	<p>水質調査の状況</p>  <p>透明度板を使用して、透明度および水色を測定した。</p>	<p>アサリ</p>  <p>殻長 4cm 程になる。潮干狩り等で盛んに獲られる代表的な二枚貝。東京湾のものは形が細く、模様のコントラストが強いものが多い。</p>																													
<p>シオフキガイ</p>  <p>殻長 5cm 程になる。内湾奥の干潟域等の砂泥底に生息する。殻色は白色から紫褐色まで変異が多い。</p>	<p>オウギゴガイ</p>  <p>全長 20cm 以上になる大型のゴカイ類。東京湾の泥底から砂泥底では、貧酸素状態の期間を除き、普通に見られる。</p>	<p>マテガイ(死殻)</p>  <p>体長 2cm ほどになるフナムシに近い仲間。細長い円筒状の体をしており、白地に褐色の斑紋がある。干潟の表層部に巣穴を掘って生活する。</p>																													